

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

## 外部評価の結果

講評
<p>全体を通して(特に良いと思われる点など)</p> <p>民間でしか出来ぬグループホーム、それも地域密着型で学童保育が出来る場所作り、その為に島根県遠見学に行き、グループホームとは？を考えると同時に実際に50件以上のグループホームの見学を行い、管理者の求めているグループホーム像を確立している。オープン前二週間、代表者、管理者、職員がこの施設の目指す姿、ケアの心、理念の共有化・・・など皆での研修が職員全員を束ねる原動力となっている。又外部からも講師を招いて研修されたその資料が、マニュアルは好きでないと言われながらも、宝物としてドンと大きな位置を占めている。</p> <p>職員は利用者へ寄り添いその方の思いを引き出せるよう、ゆっくり時間をかけて、自然体でケアさせている点が増えている。記録についても、しっかり利用者の目線に合わせての記録。それが出来るようになるまではポットイット方式で記録され、利用者の見方がうまく出来てきたら、記録の方法をまた変えていく。犬が一匹、子犬の時から居るので、よく可愛がって、利用者や職員のストレス解消に役立っている。午後になると、子供達が学校から帰って来て、賑やかな声がする姿がチラホラといい感じ。作品を作っては、おじいちゃん、おばあちゃんへプレゼントして持参してくれば、利用者の方は牛乳パックで子供の数だけ椅子作りをしてプレゼントしようと本気を出している。共に元気を貰ったり、あげたり、本当にいい関係がうれしい。</p>
<p>特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした</p> <p>将来のことを考えてハード面で、居室にトイレがあるとより良い、居室内の移動用のちょっとした手摺もあればいいかなと思う。</p> <p>洗面台の横にある利用者の洗面具入れに使っている引出し付きの棚が不安定なので、倒れないようにして欲しい。(訪問時二回も大きな音を立てて倒れた)</p>

## 事業所名 グループホーム たんぼぼ

日付 平成17年3月31日

特定非営利活動法人

評価機関名 高齢者と痴呆の人のケアを大切にする会

LIFE SUPPORT推進グループ

評価調査員 在宅介護経験10年

評価調査員 老人保健施設介護及び介護支援専門員  
経験8年

自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

## I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	<p>グループホームとしてめざしているものは何か</p> <p>いやし、安らぎ、喜びを目指して</p> <p>1. 一人ひとりを大切にしたいケアがしたい。</p> <p>2. 職員は、じっくり利用者へ寄り添って、その人をしっかり見つめていく。</p> <p>3. 時間をかけ、利用者の一寸した「言葉」「態度」より「思い」を引き出すきっかけ作りをし、強制的ではないが、生き生きと輝いて役割を果たし、出来ることへの自信になるようにしていく。</p> <p>帰宅願望のある方が、ある程度自分が出来ると自信を持ち始めた利用者には、逆帰宅で職員がお客様と一緒に帰り、現実を共に見つめることを検討している。</p>		

## 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	<p>入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か</p> <p>リビングルームでは、職員が一人ひとりの利用者へ寄り添って、ゆっくりと話しを聞く姿勢があり、その中で自分を見出し、何が出来るか、何が自分にとって役立つ場になるかを考えるような動機付けの取り組みがされている。</p> <p>田園の中にゆったりとした建物。同じ建物に入口が2つ、学童保育、その横にグループホーム。小学校がすぐ近くに見える。</p> <p>このような地域の大きな空間と小さな居心地の良い空間がうまく組み合っている。何をしても良い自由な中に、自分が自然に能力を出せる環境作りがされている。</p>		

## ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

## III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	<p>一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か</p> <p>利用者ごとじっくりと向かい合い、時間をかけ、その人の思いや持っている力を引き出すようにしている。例えば、入居した当時は職員に言われるままに、自分から何かしようという意欲も無くなっていた人が、現在は朝、夜勤者が大変忙しんでいるのを見て、「私が何かしましょうか?」と言い、「朝の仕事が自分の役割と喜びを感じている人」「洗濯物を干したり取り込んだりする人」「調理の下拵えや後片付けをする人」が時間の流れの中で、自然に動いている。それが&lt;せかせか&gt;せず、&lt;ゆっくり&gt;と自然体で行われているのは、普通の家庭である。食事と介護は離して考えている。栄養士がいると、献立作成(治療食を含めて)はもとより、毎日の食事にちょっと手をかけたデザートをつけたり、園児とおひなさまをした時は、園児は絵を持って来て、ホームはクッキーを作ってもてなす。毎日の食生活も豊かになるし、料理もバラエティになり、利用者も自分の作ったクッキーを園児が喜んで食べてくれる事はとても嬉しいこと。一方職員の調理のことは考えなくてもよく、じっくりと利用者へ寄り添うことが出来る。家族がケアに参加しているのも嬉しい。例えば通院介助は家族に依頼することにより、家族と利用者の関係、家族とホームとの関係をより深く維持出来、家族もグループホームの一員としての自覚を促している。</p>		

## IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	<p>サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。</p> <p>逆ショットを予定したり、グループホーム同志の交流をして実習生を引き受けたり、ゆくゆくは月1回のミーティングでは、利用者のよりきめ細かい情報を討論するようにしたい。何処へ行っても、「あのホームの方ならと言われる職員になって貰いたい」と人材の育成に力を注いでいる。学童保育と在宅介護サービスそしてグループホームは学童の父兄が中心となり、市や学校の協力も得て地域社会と密着し、これからの時代に先駆けて作られた福祉施設と言える。従って子供や父兄を巻き込んだ生活があるのは、グループホーム単独では考えられないメリットが多くあり、小学校の先生、幼稚園の先生や父兄との交流も盛んで、地域との連携は理想的である。家族もホームの一員となって利用者を支え、利用者や家族が離れるという事がない。又在宅介護とグループホームでの生活を一元化した考えで、家族とグループホームの生活を可逆化させて、家での生活とグループホームでの生活を共有出来るようなシステムも考えているようだ。将来に地域に根付いた認知症高齢者が安心して暮らせる社会づくりの第一歩を見せて貰った。この将来を楽しみに見続けていきたい。</p>		